

ODA（政府開発援助）とは、政府や政府機関が発展途上国の経済発展や福祉向上などを目的に提供する資金や技術援助のことです。日本の ODA のうち円借款を実施している国際協力銀行バンコク事務所の方に、最近うかがったお話です。

タイ東北部イサーン地方の農民たちは、農業だけでは生計が成り立たないため、出稼ぎに行きます。彼らは毎年お金を借りて肥料や農薬を買い、農業を営んでいますが、農産品の価格変動や長い乾季のため十分な収入を得られず、借金を返済して残った残金では生計が成り立たないため、結局バンコクなどの都会に出稼ぎに出ているのです。

このような状況を見て、自立的な農業ができるように、農業用のため池を整備したり、農道や灌漑施設を建設するプロジェクトが、5年前から日本の ODA によって実施されました。ため池を造ることによって、年間を通じて複数の種類の作物を栽培したり、家畜や魚を育てることができるようになり、収入源が増えるので、彼らは安定した収入を得ることができます。このおかげで、農業に専念することができ、わざわざ出稼ぎに行く必要がなくなったため、家族で安心して一緒に暮らすことができるようになりました。

国際協力というと、何か国家的な大きなプロジェクトのことを考えてしまいましたが、こんな風に、人々の生活の、ささやかな幸福につながる、地道な草の根的協力も、大事なことではないでしょうか。国際協力銀行の 2005 年度版「環境・社会行動レポート」では、「プロジェクトを実施する際に検討すべき環境への影響には、先住民族、文化遺産、ジェンダーや子どもの権利、HIV/エイズ等の感染症等の社会的関心事項が含まれると考えている」と明記しています。ODA にもファミリー・フレンドリーな視点を入れることによって、環境にも配慮した持続可能な社会が形成されることが期待でき、同行もまた持続可能な援助ができるといえるのではないのでしょうか。